

上総七里法華(二)

(NO. 349)
平成26年7月

一 七里法華の形成

平成25年1月に掲載した『上総七里法華(一)』の中で、七里法華は、十五世紀半ば過ぎから百年以上の歳月をかけて形成された旨を記載しましたが、このたびそれはもっと長い年月を経ていることが明らかになりました。

明治十二年に千葉県が作成した『寺院明細帳』により、七里法華の關係寺院を集計し、寺院数、創建や改宗の年代、前宗派等を再調査しました。それにより、七里法華域内には、江戸時代におよそ四百のいわゆる日蓮宗寺院が存在し、その多くが十五世紀半ば以降から二百年ほどの歳月をかけて創建または改宗により形成されたことが判明しました。

しかし、現在では、九十寺ほどが統廃合となり、約二十寺の単立寺院を加えると三百を超える寺院が全て日蓮宗系寺院となっています。

この七里法華の形成には、

土気城主酒井清伝(定隆)と日蓮宗妙満寺派の僧日泰との関わりを除外することはできません。両者の關係は、永禄二年(一五五九)付の『本興寺棟札銘』に、鎌倉の本興寺を日泰の大旦那である酒井清伝が、文明十三年(一四八二)に本堂を建立したと記されているからです。

本号では以下、土気・東金両城の始祖である酒井清伝についてその系譜等を記したいと思えます。

二 酒井氏の系譜

戦国時代の一時期、両総の原氏、そして戦国大名である小田原の北条氏や安房の里見氏に仕えた酒井氏の家系については様々な説があります。

それは、千葉常胤を祖とする千葉氏系、新田政義を祖とする新田氏系、足利満隆を祖とする足利氏系、土岐光定を祖とする土岐氏系、そして、藤原氏系、上杉氏系の六説です。

この中の土岐氏系は、『鎌倉大草紙』にある「浜春利が土気・東金の先祖」という記述に重なる部分があり、従来は、土岐氏系の浜治敏(春利)の子が清伝(定隆)とされていた。しかし、近年、春利自身が清伝であろうという説が出され、有力視されています。それは、浜春利が両総入りした康正元年(一四五五)の二十数年後に、その子が本興寺を建立するにはあまりにも歳月が短いであろうという推論からです。いずれにしても、日泰が開基した本行寺のある浜野を領していたという酒井清伝と七里法華の形成には、大きな関わりがあります。



酒井清伝座像 一本壽寺所蔵

茂原市文化財審議会委員

小川 力也

文芸コーナー

子供の道

山本 明美

子供たちがよく遊ぶ

小さな山の中に

三十センチ巾程の道がある

細い山の中の道は

子供たちの足で踏まれ

乾いて白く光って見える

道の両脇は

春の草花が溢れ

少し奥は竹や木々が茂っている

子供たちの後を追うように

その道を辿り

更に行く道は途切れていた

竹藪が広が

薄暗がり

光の方へ続いている

探検はここまで

もう戻るぞと言う

リーダーの声が聞える

◎選評 斎藤正敏

山の中の細道は、子供たちの好奇心や探究心が作った道なのでしょう。そして、山の途中で道が途切れているのは子供たちの知恵と判断力なのです。

- 偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
- 投稿は楷書をお願いします。

※詩の原稿送付先(直接選者)へ 〒297-0032 茂原市東茂原7番地 斎藤正敏宛。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内をお願いします。

